

第三章 聖書・主題と目的

I、主題としてのイエス・キリスト

主イエス・キリストこそは、聖書の最高の主題である。しかし、聖書を読んでいくと、キリストの人格と働きの完全性は、さまざまな面から描かれていることがわかる。

1、創造主としてのイエス・キリスト

創世記には神の創造の御業が記されている。そこにはエロヒム（神）という語が使われており、父なる神、子なる神、聖霊なる神を包括している。キリストによって万物が造られたということを明らかに示しているのは新約聖書に入ってからである。

[ヨハネ 1：3、コロサイ 1：16、17]

2、世界最高の支配者としてのイエス・キリスト

キリストは創造主であられるゆえに、宇宙最高の支配者の位も占めておられる。キリストが世界を治めることが目的 [詩篇 2：8、9]

すべてのものがキリストを主と告白すること [ピリピ 2：9-11]

人間の歴史は神への反逆を記録していると同時に、キリストが全世界にその支配を確立される日を、待ちわびていることを示している [詩篇 110：1、黙示 19：15、16]

歴史上で諸王国は興っては滅びた。最後の王国は天からのものでキリストが統治される。 [ダニエル 7：13、14]

キリストの主権は、キリストがそのかしらであられる教会との関係にも表されている [エペソ 1：20-23]

キリストはすべての人の最高のさばき主でもある [ヨハネ 5：27]

3、受肉したことばとしてのイエス・キリスト

イエス・キリストは神の本質の形をとった具現であり、神の性質と存在の一つの啓示であった。キリストのうちには神に属する性質、特に神の知恵、力、聖潔、愛が示されている [ヨハネ 1：1、ヘブル 1：3]

4、救い主としてのイエス・キリスト

サタンを征服する約束の子孫 [創世記 3：15]

全世界の罪を負う主のしもべ [イザヤ 53：4-6]

全世界の罪のためのいけにえ

[I コリ 15：3、4、I ペテ 1：18、19、I ヨハ 2：2]

われわれの大祭司 [ヘブル 7：25-27]

聖書の中心目的の一つは人類にキリストを通して救いを与えること。ゆえに創世記から黙示録に至るまで、イエス・キリストは唯一、至高の救い主として示されている。

[使徒 4：12]

Ⅱ、聖書における人間の歴史

聖書は何よりも神に栄光を帰するために書かれているが、その目的に沿って、人間の歴史を記録している。人間の創造、洪水によるさばき、ノアの3人の子供、アブラハムの選び、そして、キリストを信じる教会、ヨハネの黙示録においてクライマックスになる人間の歴史が記録されているのである。

Ⅲ、聖書の目的

聖書の至高の目的は神の栄光の顕示である。

神の栄光をあらわすことは、私たちに対する。大きな恵みである。それは、愛と献身のふさわしい対象が与えられ、信仰と心の平安の基盤を得、救いの確信があたえられるものである。

- 1、すべては神の栄光のために造られている [詩篇 19 : 1]
- 2、イスラエル民族は神の栄光のため [エレミヤ 13 : 11]
- 3、救いは神の栄光のため [ロマ 9 : 23]
- 4、すべての奉仕は神の栄光のため [I コリ 10 : 31]
- 5、キリストの新たな切望 [ロマ 5 : 2]
- 6、信者の死さえも [ピリ 1 : 20]
- 7、救われた者たちはキリストの栄光に与かるよう定められている [コロ 3 : 4]